

## 清水港海づり公園代替施設整備事業基本計画案

### 1. 清水港海づり公園代替施設整備コンセプト

平成 15 年 11 月 16 日に、「大型浮体式構造物（通称：メガフロート）」の上部を公園施設に改造した「静岡市清水港海づり公園」が、清水区袖師地先にオープン。

「静岡市清水港海づり公園」は、新たな水辺の憩いの場となり、渡船による有料施設であったにもかかわらず、年間約 2 万人が利用する多くの人から愛される施設までに成長した。

平成 23 年 3 月 11 日に発生した「東北地方太平洋沖地震」により被災を受けた東京電力「福島第一原子力発電所」における、放射能汚染水の貯留施設として、国・県・東京電力の要請により、惜しまれつつも国難に向け、東京電力に譲渡された。

平成 27 年 6 月 11 日には、興津地区連合自治会より新興津地区人工海浜・緑地整備に「多様な賑わいが創出される施設が付加されるべき」として海づり公園の整備について要望書が提出されている。

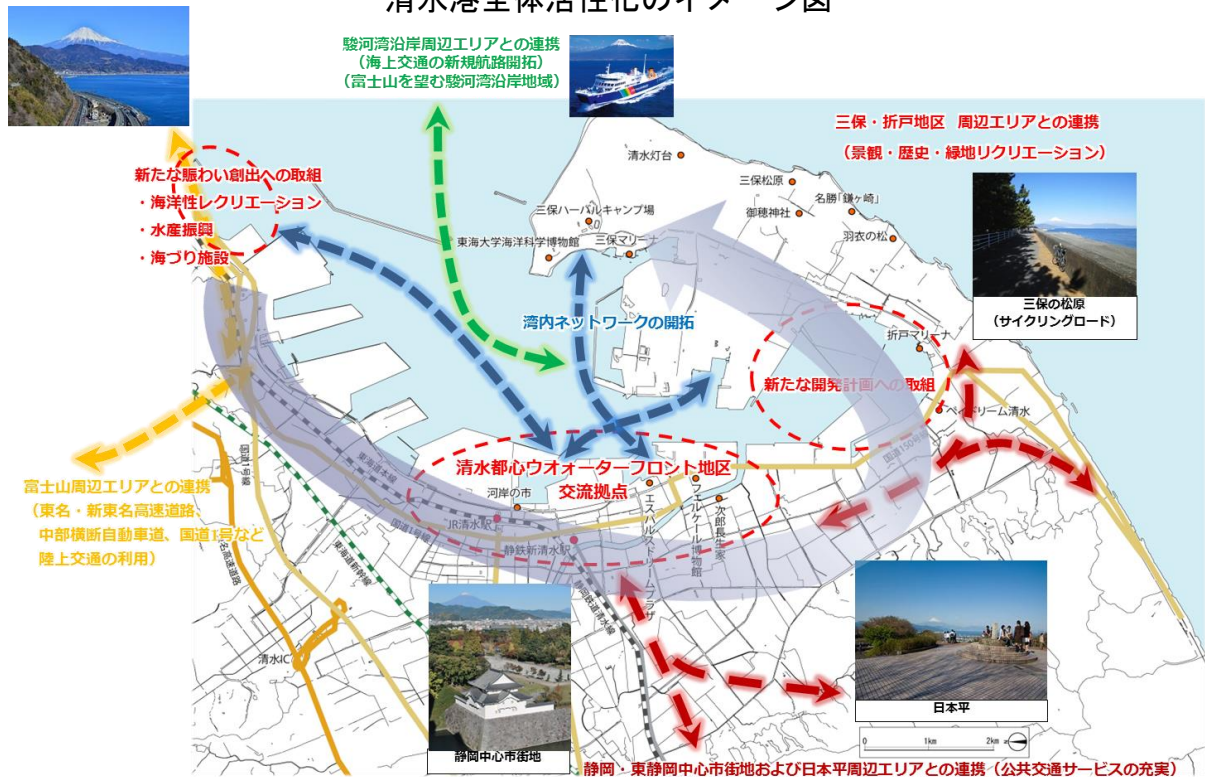
これらを踏まえ、再建コンセプトを以下のとおりとする。

- ① 旧海づり公園の機能であった「市民への水辺の憩いを提供する場」が失われたことから、海づり公園を再建して、新たな水辺の憩いの場を提供する。
- ② 海づり公園は、海洋性レクリエーションとして、誰もが憩え、楽しめる場所を提供することを目標に、海づりをするための「海づり施設」と共に、隣接する公園部には「休憩する施設や子どもたちが遊べる施設」などの機能を一体的に整備する計画とする。
- ③ 海づり公園は、旧施設の実績（旧施設は、約 3 割が県外在住利用者）からも他県からの集客が見込めるものであり、高規格道路網の結節点にほど近い興津地区に、このような新たな賑わい空間を創造すること



によって、他県からの交流人口を呼び込み、清水港全体の活性化に寄与する。

清水港全体活性化のイメージ図



- ④ なお、失われた水辺の憩いの場の再建として、旧海づり公園の利用実績から年間計画入場者数 2 万人を想定した同様規模の施設整備を行う。

## 2. 清水港海づり施設整備基礎条件

### 1) 施設整備箇所

新興津地区

※「静岡市清水港海づり公園代替施設整備に係る市民検討会」による検討

### 2) 施設の条件

主要構造 栈橋式（鋼製杭基礎によるコンクリート栈橋を想定）

耐用年数 50 年

年間計画入場者数 2 万人（釣り人の年間計画利用者数 1.6 万人）

釣り座の高さ（構造物の高さ）

平均的な満潮時の海面から約 3 m の高さ

平均的な干潮時の海面から約 5 m の高さ

設置水深 平均的な満潮時の海面から約 9 m の深さ

平均的な干潮時の海面から約 7 m の深さ

釣り人の定員 150人程度

(栈橋の施設延長150m程度、釣りが可能な水際の延長300m程度)

施設の幅 約10m (通路部を含む)

想定される魚種 キス、メジナ、ヒラメ、マゴチ、クロダイ、カサゴ、  
メバルなど

### 3) その他

- ① 施工期間 平成31年度～平成33年度を予定
- ② 管理運営方式 指定管理者制度を予定
- ③ 利用料 有料を予定

## 3. 公園部などの主な附帯施設 (予定)

- ① トイレ (周囲350m範囲に配置計画がないため)
- ② 休憩施設 (日除けやベンチを設置)
- ③ 駐車場 (人工海浜・緑地と共用を計画)
- ④ バリアフリー施設 (車椅子対応スロープなど)
- ⑤ 子どもの遊べる施設 (多目的プールなど)
- ⑥ 管理棟 (入場者管理、用品レンタル、売店など)
- ⑦ 監視施設 (転落者発見のためのカメラ施設)
- ⑧ 放送施設 (防災放送用音響施設)

## 4. 海づり公園代替施設整備事業概算工事費及び開園予定時期

- 1) 概算工事費：約7億円 (静岡市清水港海づり公園代替施設建設基金を  
充当：約3億4千万円)
- 2) 開園予定時期：平成30年代半ば

### 施設図等

別添

- ・ 清水港海づり公園計画位置図 (案)
- ・ 清水港海づり公園イメージパース図
- ・ 清水港海づり公園計画平面図 (案)